

三郷・中萱住吉地区

—— 貞享義民の里を訪ねて ——

貞享3年（1686）の貞享騒動で農民を救うために立ち上がり、首謀者として犠牲になった多田加助のふるさとをたどるコースです。貞享義民記念館をはじめ、貞享義民社、熊野神社、いちよう堂、首塚など、義民の歴史に触れることができます。また、昔の集落の面影が残る住吉集落や住吉神社もあり、安曇野の歴史を感じる地域です。



住吉神社の神楽殿



熊野神社の逆さ杉



水路のある榎の小路



榎沿いの榎の道祖神



本棟造の民家（住吉）



正一位稻荷神社 安曇野豆知識 p.29



住吉集落のまちなみ

◆コースタイム ※時間は歩速 3km / 毎時としての目安です（休憩含まず）。

スタート 貞享義民記念館→約 0.5km*10分→伍社宮→約 1.1km*22分→いちよう堂→約 0.6km*12分→住吉神社→約 1.2km*24分→住吉公民館→約 1.4km*28分→首塚→約 0.4km*8分
→ゴール 貞享義民記念館 【合計】約 5.2km*1時間 44分

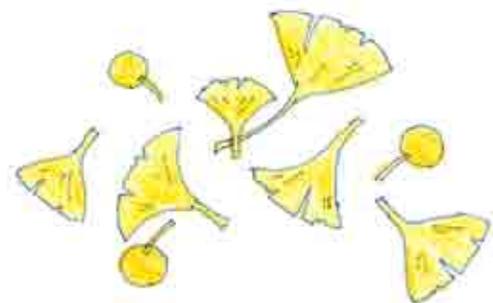
① **伍社宮** ※本殿・絵馬：市有形文化財

伍社宮は及木の産土神で、本殿は明和6年(1769)に建立された穂高神社本殿を、文政12年(1829)の御遷宮のときに払い下げを受け、移築したものです。毎年10月の体育の日の祝日の前日に、本祭りを行なっています。☞安曇野豆知識 p.28



② **いちょう堂**

多田加助の参謀役だった小穴善兵衛の妻お里は、家族6人と出生した子を処刑で失い、ひとり残されて尼となりました。亡き夫や子らの菩提を弔おうと墓所の中に建てた庵が、後に「いちょう堂」と呼ばれるようになりました。善兵衛の墓のそばにあった大きないちょうの木に因んで、名づけられたと言われています。



③ **住吉神社** ※本殿・絵馬・古文書：市有形文化財、社叢・御神木「ヒノキ」：市天然記念物

住吉神社は、伏流して尻無し川となった黒沢川の末端に位置しています。毎年4月の最後の週末に例大祭が行なわれ、宵祭りでは御幣が立てられた「舞台」と呼ばれる山車が、本祭りでは船形の「お船」が奉納されます。広い境内には、サワラ・スギ・ヒノキなどの大木が茂り、社叢と御神木のヒノキは安曇野市の天然記念物に指定されています。

☞安曇野豆知識 p.28

④ **住吉集落**

江戸時代前期に成立した新田村で、南北の道路に沿った短冊形の計画的な町割が特徴です。以前は現在の半分程度の道幅の両側に、ケヤキ並木と古民家が連なっていましたが、道路拡幅に伴って大木は切られ、近代的なまちなみへと変わりました。整然となった現在でも、街道沿いの石垣や本棟造の民家、民家を覆う屋敷林が、当時のまちなみの面影を伝えています。



—— 貞享義民の里 ——

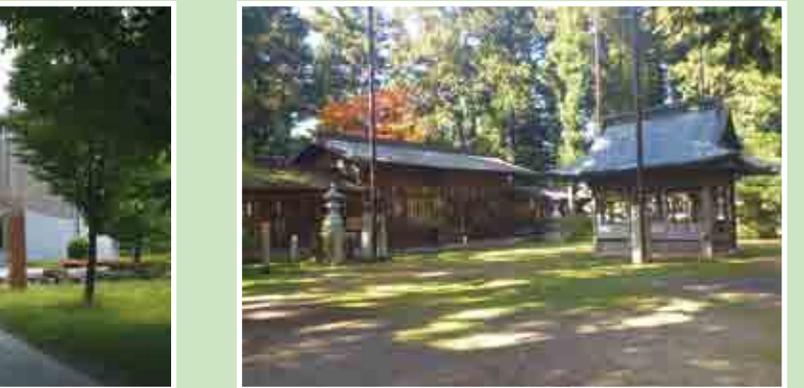


a **貞享義民記念館**

義民の業績をたたえ、史実を後世に伝えるために、平成4年(1992)に開館。分かりやすい展示とハイテクシアターの映像で、郷土の歴史と文化に触れることができます。

b **貞享義民社** ※加助宅跡：県史跡、貞享義烈碑・梧竹の額：市有形文化財

多田家の祭神として、騒動から50年目の享保20年(1735)に邸内に建立されたと言われます。明治13年(1880)に同志12柱を合祀して200年祭を行ない、現在の位置に本殿を造営しました。境内には俳人柿本芳月の筆になる「二斗五升語り伝えよ稲の波」の句碑があります。西側には加助宅跡、北側には加助の墓があり、戒名の「悟雪承頓居士」は雪のような潔白な悟りと、頓かの死を承たという意味を表わしています。



c **熊野神社** ※本殿・旧八坂社本殿：市有形文化財

中萱の産土神である熊野神社は、権現様とも呼ばれています。紀州熊野神社より分祀されたといわれ、多田加助の家とは昔から深いつながりのあるお宮でした。貞享年間、飢餓と重税に苦しむ百姓を救うため、加助がしばしば同志と集まって密議を行なった場所でもあります。ご神木の逆さ杉は、加助が地面に逆さに突き刺した杖が、根付いて大きくなったと言われています。☞安曇野豆知識 p.28

d **首塚**

処刑場にさらされていた加助一族の首は、もらい受けた親戚の者によって、加助の母の実家の墓のある砂原の墓地の隅にひっそりと埋葬されたと言われています。その目印に柏樹(ビャクシン)の木を植えたと言われ、首塚と呼ばれるようになりました。

☞安曇野ゆかりの人物 p.26

